

研究内容：特別支援教育の充実

学校名：安芸高田市立八千代中学校

所在地：安芸高田市八千代町佐々井1438-1

HP：http://www.yachiyo-j.hiroshima-c.ed.jp/

対象：4学級 70名 (H24.11.1現在)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及びテーマ設定の理由

①研究テーマ

自己指導能力の涵養

～ 生徒指導の三機能（自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係）を生かし、特別支援教育を視点にした授業改善を通して～

②テーマ設定の理由

本校では、平成21年度から研究主題を「夢を持たせ今をがんばる意欲の育成」とし、授業改善やキャリア教育の推進、やらせきの指導に取り組んだ。その結果、意欲や教科学力等に一定の成果があり、清和な学校風土が定着した。

次のステージとして、更なる意欲の向上、教科学力の向上を目指すこととしたが、そのためには、近年、発達障害傾向の生徒が増加していることも踏まえ、今までの取組の上に、新たな取組をする必要があるのではないかという考えに至った。

そこで、平成23年度からは「自己指導能力の涵養」を研究の柱と位置付け、「わかる・できる」を生徒が実感できるように、生徒指導の三機能を生かした授業改善、特別支援教育を視点にした授業改善（授業のユニバーサルデザイン化）に取り組んでいる。

(2) 研究組織・体制（省略）

(3) 研究内容

- 「目指す授業」の明確化（職員全員で先進校視察）
- 授業改善の視点の共通理解と「共通実践事項」の作成
- 各教科における授業改善、授業研究
- 校内アンケート、諸調査の実施と分析
- 個別の支援体制
 - ・気になる生徒の実態把握（校内委員会）
 - ・支援が必要な生徒の理解（校内特別支援教育研修等）
 - ・職員室等における生徒の様子の日常的な情報交換

2 授業改善のポイントと共通実践事項

生徒指導の三機能を生かした授業のポイントと特別支援教育を視点にした授業のポイントを融合した「共通実践事項」を全教科で取り入れて授業実践を進めることにより、授業者・生徒が楽しくすべての生徒がわかる・できる授業の創出に取り組んだ。

(1) 生徒指導の三機能を生かした授業改善のポイント

《自己存在感》（個を大切に、学ぶ楽しさや達成感をもたせる）

- 生徒の考えにある良さを見付け、認め、肯定的評価をする。
- つまずきや誤答を肯定的に取り上げ、みんなのためになったことを評価する。
- 机間指導で全生徒に声をかける。
- どの生徒をどの場面で生かすかを工夫する。
- 呼名に対し「ハイ」という5m先に届く声で返事をさせる。

《自己決定》（生徒自らが考え表現する）

- 生徒が興味・関心をもつ教材やその提示方法を工夫する。
- 生徒に課題解決の過程を考えさせるような授業展開にする。
- 生徒自らが調べたり、探求したりするように配慮する。
- 友達の考えを理解し、自分の考えをもたせる。また、発表する場をつくる。
- 個で考える時間やノート記述時間を確保する。

《共感的人間関係》（お互いが認め合い、学び合う）

- 生徒の発表にうなずきや相づちで応え、共感的に受け入れる。
- たどたどしい発言や的外れの発言でも、言い終わるまで丁寧に聞く。
- 発言をつなぎ、集団での学びの場とするよう工夫する。（指導者と生徒との1対1のやりとりにならない）
- 傾聴姿勢を取らせる。

(2) 特別支援教育を視点にした授業改善のポイント （授業のユニバーサルデザイン化）

《シンプル》（焦点化・単純化）

- 本時のねらいを示し、活動の流れを板書や掲示物で示す。
- 1つの指示で1つの課題を出す。
- 学習を細かいステップに分けて指導する。成功体験を得る機会を増やす。

《ビジュアル》（視覚化）

- 手本・例・模型・見本などを示し、イメージをもたせる。
- 注目させたい部分は強調して提示する。
- 学習過程が後からでも分かる表示や板書を工夫する。

《シェア》（共有化・つながり・認め合い）

- 学習の形態を個人思考から集団思考へつなげるように工夫する。
- 多様な方法で発表する機会を設定する。
- 可能な限り生徒の発言をつないで授業を展開し、ねらいに迫る。

(3) 共通実践事項

《共通実践事項》

- 前の黒板の周りなど視界に入る部分はすっきりとしておく。
- 挨拶（語先互礼）をはっきりと大きな声でさせる。
- 一時間の授業のねらいを板書や掲示物で示す。
- 本時の学習の流れを示し確認させる。
- 話や作業を止め、一瞬間を取り、全員を注目させ指示や説明をする。
- 一指示・一動作・一確認。多くの指示や言い換えをしない。
- 注目させる時は声のトーン（大きさ・速さ）を変える。
- 活動の視点（何をどこまでする・終わったらどうする）を明確に示す。
- 指導者がしゃべりすぎない。生徒の活動の時間を十分取る。
- 学習を細かいステップに分けて指導し、成功体験を多く感じさせるリズムのあるスモールステップで進める。

※平成23年度作成した30項目の中で重点的取り組みものを絞り込み、平成24年度は10項目に精選

3 実践事例

- (1) 第3学年・数学科
- (2) 単元名「2乗に比例する関数」
- (3) 本時の目標

二つの関数の関係を考察し、車の停止距離を予想することができる。



- (4) 授業改善のポイント

- 授業のねらいには「何を使って、何をするのか」を明確に書く。

表、グラフ、式を用いて、時速100 kmの時の自動車の停止距離を求める。

- 課題提示のとき、数値を表に整理して示すことで、関係を把握しやすくする。
- 自力解決のワークシートに枠を示すことで視覚的なヒントにする。

次の表は、ある自動車の速度と空走距離、自動車の速度と制動距離を表したものです。自動車の速度と空走距離、制動距離の間にはどのような関係があるか考えて、時速100 kmのときのこの自動車の停止距離を求めてみよう。

時速 (km/h)	空走距離 (m)	制動距離 (m)	停止距離 (m)
20	6	3	
30	8	6	
40	11	11	
50	14	18	
60	17	27	
70	19	39	
80	22	54	
100	①	②	③

解答欄を目立たせることで助かる生徒がいる。

- 繰り返合う場面ではペアで考えを交流した後、全体で発表させる。
- まとめの場面では、生徒に自分の言葉で学習の振り返りを発表させ、共有する。
- 生徒の振り返り発表の中から重要な語句や考えを板書し、囲んで強調する。

4 研究の成果と課題等

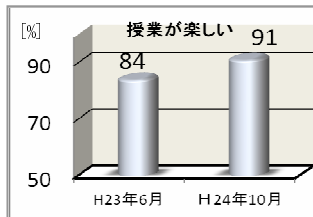
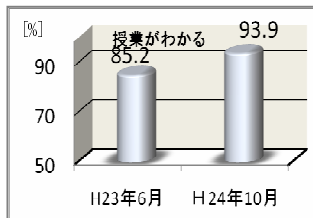
- (1) 成果

- ①授業改善について

「授業が分かる」「授業が楽しい」という項目をみると、9割以上の生徒が実感できるようになった。

生徒からの聴き取り等により、主に興味・関心をもたせる工夫をしていること、説明や指示を分かりやすくすることにより向上してきたと考

【生徒アンケートより】

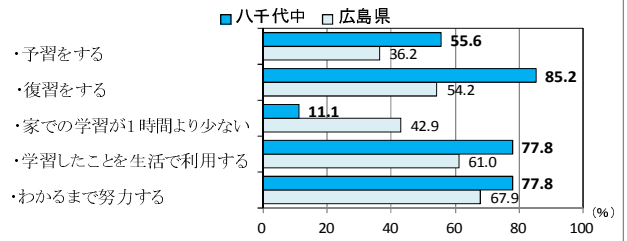


える。

また、自分で考える時間と友達と考える時間を確保することにより、生徒指導の三機能が注ぎた授業改善になったものと考えている。あわせて、授業規律の徹底や自信につながる評価をしていったことで「安心して発表できる」という環境が整ってきたと考える。

- ②意欲の向上について

【平成24年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査より】

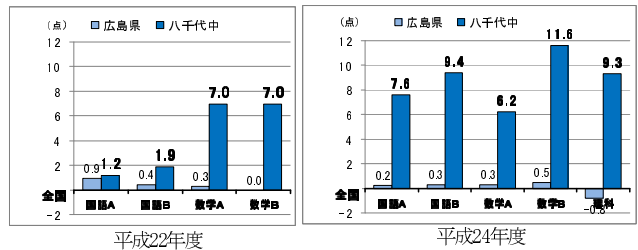


予習・復習、家庭学習の時間等が県平均を上回った。分かりやすい授業づくりに取り組んだことで、生徒の意欲が向上したと考える。

このような学習に対する意欲の向上と生徒の主体的な行動は、本校が研究の柱としてきた自己指導能力が育ってきたものと考えられる。

- ③教科学力の向上について

【平成22・24年度全国学力・学習状況調査より全国平均との差異】



平成22年度と24年度の全国学力・学習状況調査における全国平均との差異を比較したところ、国語科、算数科とも全国平均、県平均を上回った。分かりやすい授業づくりによって、生徒の学力が向上したと考える。

- (2) 課題と今後の改善方策等

取組によって、一定の成果が上がったものの、まだ、すべての生徒が満足しているわけではない。このことを真摯に受け止め、今後は、個々の生徒の実態を十分考慮して授業改善に生かすことに努めなければならないと考える。そのためには、生徒を多面的に理解するための情報収集と、高い指導力が必要である。

幸い、本校では小学校との連携や職員室での日常的な情報交換、教科の枠を超えた授業研究の実績がある。これらを有効なツールとして活用し、「授業者・生徒が楽しく、すべての生徒が分かる・できる授業の創造」に邁進していきたい。